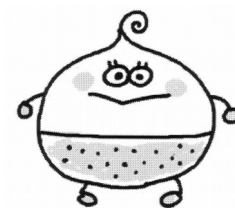


HDM推進会（第 65回）／ごみゼロネット推進会（第 87回）議事録



開催日： 2015 年 (H27 年) 8 月 12 日 (水) 10:00 ~ 11:40

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、加藤、杉本、桐生（作成）

本日は加藤氏が準備した「2015 年 8 月ごみ・生ごみの動き」により説明した後、小金井市の市長選についての下馬評を話し合った。後の議論については記録を省略する。

議 題：

1. 7/6「資源持ち去り禁止」市民説明会とパブリックコメント

- 市民説明会での市民の参加者は2名のみ。パブリックコメントは5名の人が出している。8件のパブリックコメントに対し、市側が回答している。小中学校の貴重な財源になるとはいえ、市民側からはどうしても良い問題なので、関心を惹かなかったようだ。

2. 8/8「ごみ問題の現状と先行き」説明会

- 参加者 21 名。説明者はごみ対策課長 及び加藤氏。「一般廃棄物処理基本計画」、「平成 27 年一般廃棄物処理計画」及び「三市可燃ごみ共同計画に関する説明会」。
- 注目点： 26 年度は 25 年度に対して家庭系で 96.4 トン、一人当たりで 1.9 g / 日増えた。ごみ対策課長は「人口が増えた」「剪定枝が増えた」と答弁したが、実態に合っていない。遂にごみ減量キャンペーンは限界に来た。

3. 8/25 ごみ対策課が久喜・宮代衛生組合の見学会を行う

- ごみ対策課のメンバーは、先般の熊谷清掃社の新工場を始め、度々HDMの見学に行っており、とても熱心なようだ。
- 予てごみ対策課は「HDMの検討を止めた訳ではない」と発言しているが、そろそろ分別収集やHDMに手をつけないと来るとの危機感の現れとも取れる。

4. 日野市の住民が提訴していた「事務監査請求と住民監査請求」は棄却

- 「監査請求を進める会」は日野市内にこれに反論するビラ 7 万枚を配布（全戸配布に近い）。10 項目ほどの問題点について、理路整然と述べられている。国分寺市と小金井市から徴収する環境整備費 70 億円については、本来は地元住民の請求があつて進めるべき事案なのに「地元民はこのような要求をしている訳でない」と明記されており、禁じられている一種のつかみ金であると反論している。なお、環境整備費の両市よりの分割払いは既に始まっているが、小金井市民にはそれらの事情は一切知らされていない。
- 日野市の住民の会には弁護士、大學教授が多数いて活動の中核となっており、また 7 万枚のビラの全戸配布を行うという行動力を有する刮目すべき住民団体である。小金井市も見習いたいものだ。

5. 小中学校等の生ごみ拠点蒐集のリース再契約問題

- 平成 20 年頃に多数導入された 100kg 級の生ごみ処理機がリース期限を迎えている。
- 再リースするとしても、実際には支出を抑える方策もあるのに、ごみ対策課はあっさり再リースしている。このような高価な支出に対しての対応に工夫が見られないのは残念だ。

以上

次回打合せ 9月9日（水）10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ